

第八章 租界關係諸問題

IMT 365

263

第八章 租界關係諸問題

第一節 上海共同租界

第一 上海共同租界工部局改革問題

上海共同租界工部局ハ租界内ノ土木、警察、衛生、學校、消防其ノ他在留民ノ一般福祉ニ重要ナル關係ヲ有スル事項ヲ管掌シ而モ其ノ經費豫算ハ毎年四千萬弗以上ニ達スル有様ニテ租界行政ノ運用如何ハ各國在留民ノ利害ニ直接重大ナル影響アル次第ニテ從ツテ從來、英、米等ハ有ユル方法ヲ以テ銳意租界行政ヲ通シテ自國民ノ利益伸張ニ努メツツアリソレカアラヌカ工部局ノ諸般ノ施設ハ兎角歐米人ノ利益偏重ノ嫌アル實情ニ在リ然ルニ一方同地在留邦人ハ約三萬ニ達シ諸外國在留民ノ比ニ非サルヲ以テ租界行政ノ運用ニ伴フ我在留民ノ利害ハ特ニ重大ナルモノアリ仍テ在留邦人間ニ於テモ近年來租界行政ニ對スル進出ノ輿論熾烈トナリ一昨年四月居留民會ニ對工部局交渉委員會ノ設立ヲ見タルカ（昭和九年亞一議會調書第十三章第一節第三參照）次テ我方市參事會員ノ活動ニ資スル爲特ニ外務省ノ

費用ニ於テ市參事會員「セクレタリー」ヲ設置シ又上海總領事館、居留民會及市參事會員等ヲ以テ共同租界ニ關スル問題ノ審議研究ノ爲「市委會」ナルモノヲ組織スル等有ユル方法ヲ講シテ目的達成ニ努メツツアリ

右我方ノ態度ニ關聯シ今夏以來在上海邦字新聞ハ工部局改革問題ニ關シ(イ)市參事會員ノ選舉制度カ舊態依然トシテ非「デモクラチック」ナルコト(ロ)工部局職員ノ地位ハ英人ガ餘リニ壓倒的多數ヲ占メ居リ且其ノ施政カ寡頭政治ニ流レ居ルコト(ハ)行政費カ餘リニ高ク殊ニ俸給カ割高ニシテ義勇隊、警察、教育、音樂隊等ニ於テ大ニ經費節減ヲ要スルモノアルコト(ニ)工部局豫算殊ニ教育費カ各國人「コムミュニチー」ニ公平ニ配分セラレ居ラサルコト等ノ諸點ヲ盛ニ書キ立テタルカ右邦字紙ノ記事ハ俄然同地外字紙ノ反響ヲ惹起シ九月中旬「イーヴニング・ポスト」ハ數日ニ亘リ前記日本側主張ナルモノヲ報道シ「上海タイムズ」「ノース・チャイナ・デーリー」ニユース」等モ論說ヲ掲ケタル處何レモ大体日本側主張ノ理由アルコトヲ認メ居

レリ

尙在上海總領事報告ニ依レハ右日本側ノ工部局改革主張ニ對シ工部局及英國側ハ非常ナル關心ヲ拂ヒ居リ殊ニ英國側ハ前記ノ如ク日本側主張カ公正ナルコトハ認メサルヲ得ストシツツモ之カ動機乃至目的カ支那ニ於ケル日本ノ對英政策ノ一表現トシテ英人驅逐乃至「ア」ンチ、ホワイト、コンプレックス」ニ非スヤトノ疑惑ヲ有シ居ルモノノ如ク若シ此ノ點ニ付英國側ヲ安心セシメ得ルニ於テハ日本人市參事會員増員問題ノ如キ妥協ノ餘地アリト爲シ居ルヤニ察セラレ又經費問題ノ外一般施政及工部局ノ機構ニ付テノ不滿ハ必スシモ日本人側ノミニ限ラレス一般外人間ニモ相當強キモノアル如ク更ニ新時代ノ要求ニ適スルカ如ク土地章程ヲ改訂スル必要アリトノ意見ハ外國人「コムミュニチー」ノ間ニ於テモ可ナリ強キモノアリト認メラルル由ナリ

我方最小
限度案ト
工部局側
態度

第二、租界外道路協定問題ノ經緯

租界外道路協定問題中日本人警察職員ニ關スル本協定及附屬文書ノ
草案ハ既ニ纏リ次テ協定適用區域問題ニ關シ石射試案ノ貫徹困難ノ
模様ニテ英國案タル越界路兩側百米原則案ヲ認メ且特別地區乃至ハ
「プレミセス」トシテ北四川路及狄威路ニ包圍セラルル三角地帯位
ヲ協定區域ニ編入方交渉ニ付詰調アリ當方ヨリ今一應最小限度案（
石射試案）ノ地區ヲ要求シ至難ナルニ於テハ北四川路以西ハ斷念ス
ルモ致方ナシトノ趣旨ヲ回訓セル次第ハ昭和九年亞一議會調書第十
章第一節第二ニ記載ノ通りナリ

石射總領事ハ十一月下旬當方訓令ニ基キ工部局市參事會議長「ア
ノルド」ニ對シ北部區域ニ關シ（イ）三角地帯（ロ）歐陽路楊家灣以西ノ地
帯（ハ）鐵道線路以東ノ地帯ヲ越界路ニ編入方申入レタル處「ア」ハ支
那側ハ三角地帯ノ編入スラ肯セストテ之ヲ工部局案トシテ支那側ニ
持出スコトヲ拒ミタルモ兎モ右日本側案ノ受諾ヲ支那側ニ勸告
スルコトナラハ引受クヘシト述ヘ一方日本側カ三角地帯ヲ主張スル

同英米側
ノ態度

代償トシテ西部區域ニ於テ「モニユメント」路、「ピヤス」路ノ全
部及「ウオレン」路以西ノ「ブレナン」路ノ放棄ヲ支那側ニ申入レ
ラレ差支ナシト示唆セリ

一方英國總領事ハ石射總領事ノ支援申入レニ對シ英國ハ百米案ニテ
満足ナリトテ之亦單ニ支那側ニ日本案受諾方ヲ勸告スヘシトナセル
カ米國總領事ハ個人トシテハ日本案ノ貫徹ヲ希望スルモ之カ對支勸
告ヲ爲スニハ公使館ニ照會ノ要アリトナセリ

同案受諾
方支那側
ニ對スル
申入

上述工部局ノ態度ニ顧ミ石射總領事ハ直接支那側ニ當ル外ナキヲ認
メ十一月二十九日吳市長ヲ往訪我方案殊ニ我方カ西部ヨリモ北部ヲ
重要視スルモノナルコトヲ説明シ工部局カ北部三地帯編入ノ代償ト
シテ西部ノ三道路放棄ヲ發意シタル次第竝工部局及英米總領事モ支
那側カ日本案ヲ受諾シ急速解決スルコトヲ希望シ居レル旨申入レタ
ルニ吳ハ考量ヲ約セルカ右石射總領事ノ吳市長申入レト併行シテ有
吉公使、須磨總領事等ヨリモ外交部竝英國側ヲ通シ吳市長ノ日本案

石射妥協案

應諸方斡旋セルモ其ノ後吳市長ハ政治的關係竝中央ヲ納得セシムルコト困難ナリトテ我方案ノ受諾難ヲ訴へ他方工部局側モ日本案ノ受諾ハ支那側ノ困難トスル所ナレハ工部局案ニ依リ解決方同意アリ度ト頻リニ督促シ來リ工部局ヲ此上抑ヘルニハ何トカ新局面ヲ開ク必要アルニ至レリ

依テ石射總領事ハ同總領事一個ノ私案トシテ(イ)三角地帯(ロ)北側ハスコット路ノ終點ヨリ歐陽路ニ向ケ東ニ引キタル直線以內及南側ハ寶安路竝同路ト歐陽路トノ間ニ存スル弓形ノ「クリーク」ヲ以テ境トスル地域(ハ)寶興路以西(本項ハ當初虹口「クリーク」以北ノ地帯トセシモ陸戰隊ノ意見ニ依リ改正)ノ地域ヲ編入スル妥協案ヲ樹テ十二月二十二日之ヲ工部局「ア」議長ニ内示シ且同案ハ吳市長案トシテ市長ヨリ持出サシムルコトトシ度旨述ヘタルニ「ア」議長ハ本案ヲ以テ事態ヲ緩和スルモノナリトテ感謝シ且「ア」ヨリモ吳市長ニ受諾方勸告スヘント云ヘリ次テ二十四日同總領事ハ吳市長ニ面會

支那側ノ
石射妥協
案承認

前記妥協案受諾ヲ申入レタルニ吳ハ充分研究ノ上「イニシアチブ」ヲ採リ解決方工作スヘシト答ヘタル由

其ノ後支那側内部ノ審議容易ニ進展セス支那側一部ニテハ日本側要求ハ將來日本租界トスル下心ニ出ツルモノナリト爲スモノモアルヤニテ英國側ニテモ我方態度緩和ヲ頻リニ要求シ遂ニ東京ニ迄持出スニ至レル状態ナリシカ三月下旬ニ至リ吳市長ハ石射妥協案ニ依ル解決方中央ニ具申シタル由ニテ四月四日石射總領事ニ對シ南京ヨリ意見ノ回示アリタリトテ日本側案ヲ今少シ緩和スルト同時ニ西部ニ於テ三道路以外ヨリ價值アル道路ノ放棄ヲ工部局ニ說得方希望ノ旨申出タリ其ノ後外交部次長徐謨ヨリモ須磨總領事ニ對シ北部ニ於テ道路ニ沿ハサル部分迄越界路區域ニ含マシムルコトハ同意シ難ク又西部ニ於ケルヨリ良キ道路ノ放棄ヲ希望スル旨語レルカ五月末吳市長ハ石射總領事ニ對シ日本側ニ於テ北部ニ對スル主張ヲ緩和シ得ストセハ西部ニ於テ三道路ノ價值アル道路ヲ獲得シ北部ニ於ケル日本

西部地域
ニ關スル
工部局支
部側妥協
案

側要望ヲ受諾スルコト已ムヲ得ストノ趣旨ノ回訓中央ヨリ來レルヲ以テ兪祕書長ヲシテ工部局「ア」議長ニ當ラシメタルニ西部ノ問題ハ考慮ノ餘地アリトノコトナリシ趣ヲ語レル處當時兪祕書長ハ工部局側ニ對シ中山路以西ノ全地域ノ讓歩方ヲ希望シタルヤニテ支那側ノ過大ナル要求ハ一時英國側ヲ驚愕セシメタルカ次テ唐外交次長ヨリ須磨總領事ニ對シ大西路、虹橋路ヲ放棄セシムル様致度旨申出ルテ我方ニテ居中斡旋ノ結果支那側ハ工部局ニ對シ「ワレン」路及以西ノ道路ノ全部（但シ虹橋路ヲ除ク）ノ放棄ヲ要求シ工部局側モ大体之ヲ容レ兩者間細目ニ付協議スルコトトナレリ

前記西部地域ニ關スル工部局支那側話合ニ於テ工部局側ハ「ワレン」路及以西ノ放棄ハ承認セルモ「ワレン」路ノ北側ノ留保ヲ主張シ兪祕書長モ之ニ折合ハントシ居リ又「エヂンバラ」、「ブレナン」、「ロビンソン」ノ三路及共同、佛國兩租界線ニ依リテ圍マルル地帶中越界路兩側百米外ノ三角地帶七箇ハ越界路區トハセサルモ越界路

警察ノ支那人警察ノ受持トシ其ノ徵稅ハ工部局代徵シ市政府ニ引渡スコトニ纏レル由ナルカ他方支那側協定案ニハ豐田紡及蘇州河「ロビンソン」路間ノ紡績地帯竝北部ニ於ケル三地帯ヲモ西部ニ於ケル七箇ノ三角地帯ト同様取扱ヲ爲サントスルカ如キ條項アリタルヲ以テ石射總領事ヨリ從來交渉ノ經緯ニ鑑ミ右紡績地帯及北部三地帯ハ孰レモ越界路區トナスコト必要ナル旨工部局ニ對シ強硬申入レ置キタル由

其ノ後石射總領事ハ細目ノ一事項トシテ北部越界路電話問題ニ關シ協定草案第三條(A)項ニ *As far as telephone is concerned the existing*

foreign telephone company shall supply its service to foreign residents

ナル一項ノ追加ヲ主張シタル爲工部局支那側間細目取極話合ハ一頓挫ヲ來シ居レル趣ナリ(十一月中旬)

第三、海關緝私條例ノ租界内適用問題

上海稅關ハ客年六月十九日國民政府公布ノ海關緝私條例ヲ同地共同租界ニモ實施セントシ同年十一月初旬直接租界當局ト接衝ヲ開始シタルカ租界當局側ニ於テハ右條例ハ工部局職員ノ手ヲ通シ又租界内支那法院ヲ道スルコトヲ條件トシテ之カ租界内支那人ニ對スル適用ヲ容認スルモ差支ナシトノ見解ノ下ニ實施ノ具体案トシテ左ノ各項ヲ稅關側ニ提議セリ

(一) 本件緝私條例ハ支那法權下ニ在ルモノニ限り適用セララルヘキコト
 (二) 本件條例ノ租界内適用ニ依リ發生スル訴訟事件ハ上海第一特區法院之ヲ官轄シ訴訟上ノ手續ハ「ミユニシバル、アドヴオケイト」ノミ之ヲ行フ

(三) 本件條例ノ適用ハ「ミユニシバル、アドヴオケイト」ニ隸屬スル「スペシアル、スクオツド」ニ委託スルコト

(四) 本件條例ノ租界内實施ニ付テハ工部局警察官ノミヲ使用スルコト

越へテ十二月初旬兩者間大体前記辦法ニ依リ本件條例ノ租界内實施ノコトニ了解成立セル模様ナリシカ本件税關側トノ交渉ニ關シ工部局側ハ事前ニ何等領事團ノ諒解ヲ求メス單ニ十一月十五日附首席領事宛書翰ヲ以テ「本件條例ノ租界内實施ニ關シ租界内ニ於ケル支那法律ノ適用ハ工部局警察官方租界内ニ中國法院ヲ通シテ爲サルヘシトノ原則ニ抵觸セサル限り本件ニ關シ税關側ヲ援助スヘキモノナリト思料ス」トノ意見ヲ附シ税關宛書翰寫ヲ送付セルニ過キサリシ次第ナル處首席領事ハ十二月十八日附回章ヲ以テ工部局市參事會議長「アーノルド」宛ノ「税關側ノ稅收確保及密輸取締要望ニ關シテハ領事團トシテモ支持ヲ與フルニ吝ナラス從ツテ工部局ノ本件ニ關スル税關側ヘノ協力ニハ別段異議ナキモ租界ノ權益擁護ノ必要上本件ニ關スル税關對工部局間ノ往復文特ニ工部局ノ本件條例租界内實施案ニハ充分ノ研討ヲ加ヘサルヘカラス即右辦法第一、二及四項ニ付テハ別ニ異議ナキモ第三項「スベシアル、スクオツド」ノ使用ハ

石射總領
事ノ意見

寧口普通ノ工部局警察官ヲ使用スル方ヲ可トスヘク要スルニ領事團
トシテハ關係國領事ノ承認ヲ經サル限り工部局對稅關側ノ如何ナル
協定モ効力ヲ發生セサルモノナリトノ趣旨ノ通告案ヲ回章セリ
在上海石射總領事ハ右ノ次第當方ニ報告スルト共ニ工部局カ事前ニ
何等領事團ノ諒解ヲ得スシテ稅關側ト本件ニ關シ具體的の話し合ヲ進メ
タルハ甚タ不都合ナルモ話し合夫レ自体ハ單ニ本件條例ヲ租界内ニ於
ケル支那人及支那法權下ニ在ルモノニ適用セントスルニ在リテ治外
法權國人ヲ拘束セントスルモノニ非サルヲ以テ租界權益カ充分ニ保
護セラレ、以上我方トシテハ租界當局ノ稅關ニ對スル本件條例ノ適
用援助ニハ積極的ニ反對スル理由乏シキヤニ思料セラレ、處前記首
席領事ヨリノ「ア」議長宛書翰案ハ本件工部局對稅關側ノ如何ナル
話し合モ關係國領事ノ承認ヲ要スヘキヲ強調シ居レルヲ以テ右書翰發
送ニハ異議ヲ扶マサリシ由ニテ本件措置振ニ付回訓ヲ求メ來レリ
依テ當方ヨリハ本年一月十四日附ヲ以テ大要左記ノ如キ見解ヲ回示

セリ

一、本件法令ノ貴地租界内適用ハ窮極ニ於テ租界行政權保全上充分ナル保障ノ下ニ之ヲ容認スル外ナカルヘシト被存ルルモ貴地ニ於ケル本件處理振如何ハ自然天津漢口等我租界ニ影響スル所ナシトセサルヘク我方トシテハ特ニ嚴重ナル態度ヲ以テ工部局ヲ監督スル要アルコト申迄モナキ儀ナリ然ルニ工部局側ハ印花稅及卷煙草統稅ノ租界内支那人適用問題解決以來支那法令ハ其ノ内容及適用ノ形式如何ヲ問ハス總テ租界内支那人ニ對シ實施セラルヘシトスル主義上ノ問題ハ既ニ解決済ニテ工部局トシテハ直接支那側トノ間ニ具體的實施辦法ヲ協定シ然ル後領事團ノ承認ヲ求ムレハ足ルヤノ見解ヲ持シ居ル如ク認メラレ過般ノ支那酒稅ノ租界内適用問題ノ際警告ヲ發セラレ居ルニ拘ラス今般工部局側カ又モヤ斯カル態度ニ出テタルハ甚タ不都合ナルヲ以テ今後共工部局及領事團ノ指導方御留意相成度

IMT 365

276

三、御來示ノ工部局海關問話合ノ辦法四項ハ單ナル要綱ニ過キサリヨ
 以テ之ノミニテハ果シテ前記一、ノ充分ナル保障ト認メ得ヘキヤ
 判斷シ難キモ右四項ニ對シ少クトモ首席領事意見ノ修正ヲ爲スコ
 ト適當ナルヘク更ニ要綱修正ノ上ハ領事團監督ノ下ニ明確詳細ナ
 ル協定ヲ締結セシムルコト可然シ

尙工部局ハ搜查令狀ノ執行ニ當リ海關側ノ立會ヲ許容スル意嚮ノ
 如キ處右ハ從來ノ印花稅局員、統稅局員等ニ許容セサリシ所ト認
 メラルルノミナラス我租界トノ振合上面白カラサルニ付テハ之カ
 是正方御努力相成度

特許狀ノ
規定

第四、上海租界内外公共事業問題
一 上海電話會社調查員派遣問題

納稅者會
議ノ決議

上海電話會社ハ一九三〇年八月ノ工部局特許條件ニ依リ昭和十年四月一日ヨリ投下資本ノ一割ニ相當スル純益ヲ得ル權利ヲ認ナラレ從ツテ之ニ伴フ電話料金ノ調整ヲ行フコトヲ認メラレ居ル處會社側ニ於テハ右程度ノ利益擧カリ居ラサルコトヲ主張シ料金ノ引上ヲ實行セント試ムル所アリ之ニ對シ在留本邦人側ハ別記北部租界外區域電話料金問題ニモ絡ミ本件引上ニ反對ノ意嚮ナリシカ四月ノ納稅者會議ニ於ケル本件討議ニ際シ邦人側ヨリ先ツ料金問題ヲ研究スル爲調査委員會ヲ設ケ專門家ヲ招聘シテ充分研究ヲ行フコトヲ提議シ可決セラレタリ

工部局側ハ右決議ニ從ヒ英國遞信省ニ對シ右專門家ノ推薦ヲ委囑セル由ナリシカ石射總領事ニ於テハ我方專門家ヲモ招請セシムルコト適當ト認メ五月末之カ人選方當方ニ依頼越セリ

稻田博士
招請問題

専門家報
告書ノ要
旨

仍テ當方ニ於テ遞信省ニ幹旋方依頼シ特ニ斯界ノ泰斗タル早大教
 授稻田博士ノ出馬ヲ促ス一方工部局側ニ對シ日本側専門家ノ待遇
 ヲ英國側ト同等ナラシムルコトヲ要求セル處種々ノ曲折ヲ經タル
 後終ニ當方希望通八月初旬同博士ノ招備ヲ見ルコトトナレリ
 一方工部局側ハ日英ノ外米支専門家各一名ヲ同シク招請シ此等四
 名ノ専門家ヲ以テ構成セラレタル特別委員會ニ對シ左記（上段）
 要領ノ調査ヲ附託セル處委員會ハ十月二十三日附ヲ以テ左記（下
 段）要領ノ報告書ヲ提出シ工部局土木委員會及市參事會ニ於テ可
 決セラレタリ

附託條項

第一(A)上海電話會社ハ一九三五年四月
 一日ヨリ料金率値上ヲ爲ス資格
 アリヤ

答 申

會社ハ「フランチャイズ」
 ノ條件ヲ履行シタルヲ以テ
 投下資本ノ十%純益ヲ得ル
 資格ヲ有ス

第一(B)會社ノ機械裝置、設備其ノ他ノ會社ノ機械裝置ニ關スル經
 費ハ合理的ニシテ且ツ已ム
 所有物ニ對スル經費ハ節約的ナ
 リヤ
 ヲ得サルモノニシテ會社ハ
 經費ニ付テハ慎重コトニ當
 リ居レリ

第一(C)會社ノ事業ノ運轉維持ニ關スル
 現在ノ經費ハ正當ナリヤ
 會社ノ管理ハ能率的ニシテ
 維持ノ状態モ満足スヘキモ
 ノナリ會社ハ經費ノ減少ニ
 努メ現在迄好結果ヲ得居レ
 ルカ更ニ此ノ努力ヲ進ムル
 コト望マシ

第二(A)度數料金制ヲ(一)業務用電話加入
 者(二)住宅用電話加入者又ハ其ノ
 雙方ニ適用スル爲採用スヘキヤ
 双方ニ度數料金制ヲ採用ス
 ルコトヲ具申ス

第二(B) 度敷料金制ヲ提議スルトセハ特

許事業協定ニ基ク投下資本ニ對
スル利益金ヲ得ル爲如何ナル料
金表ヲ必要トスルヤ

(一) 業務用電話ハ一ヶ月一五

〇同十一弗、住宅用電話

ハ一ヶ月一〇〇同七弗ヲ

必要トスヘキモ財界不況

ノ折柄ニモアリ當初八、

五四%ノ利益ニテ満足ス

ルトセハ夫々十弗及六弗

五十仙トナル

尙報告書ハ右附託事項ニ對スル答申ノ外市外通話及租界外道路地

區ノ電話問題ニ付テモ簡單ニ附言スル所アリタリ

右ノ如ク専門家調査ノ結果ハ概シテ會社側主張ヲ裏書スル結果ト

ナレル次第ニテ邦人側ノ期待ニ添ハサルヤニモ認メラルト雖モ本

件調査ニ日本側ヨリ斯界ノ權威ヲ派遣セルコトハ大局ヨリ見テ効

果少ナカラサルヘシト思惟セラレ

IMT 365

281

北部越界
路電話附
加料金

交通部電
話局ノ態
度

263

ニ 北部越界路區電話問題

上海ニ於ケル租界外道路上及其ノ附近ニ於ケル電話供給ニ付昭和八年四月十九日上海電話會社ト上海市政府公用局及交通部上海電話局トノ間ニ暫行協定成立ノ次第ハ同年亞一議會調書第十四章第一節第三所述ノ通りナルカ同協定ニ基ク附加料金ハ昭和九年四月以降加入者ヨリ徴收セラレ居レル處右料金ハ其ノ額大ナルノミナラス西部方面ニ比シ北部方面ハ者シク不利ナル取扱ヲ受クルニ實情ナルニ依リ北部方面在留邦人ハ勿論民間、總領事ヨリ之力は正方上海電話會社並工部局ニ要求セルモ容易ニ目的ヲ達スルニ至ラズ加之此等區域ニ於ケル電話ノ新設、移轉ニ付テモ支那側交通部上海電話局ハ支那側電話ニ加入セシムル意圖ノ下ニ上海電話會社ヨリノ申請（前記協定ニ依リ上海電話會社ハ電話ノ新設、移轉ニ付交通部上海電話局ニ申請スルヲ要ス）ハ殆ント許可ヲ與ヘサル實情ニテ在留邦人ニシテ電話加入ニ難澁シ居ルモノ尠カラサル有

IMT 365

282

越界路協
定トノ關
係

様ナリシヲ以テ須磨總領事ヨリモ直接交通部ニ掛合ヒタルニ支那側ハ上海電話會社ノ租界外發展ヲ阻止シ漸次支那電話ヲ増加セシメントスル方針ナリトテ我方要求ヲ應諾セス

依テ石射總領事ハ越界路問題ノ交渉ニ關聯セシメ多少トモ之カ解決ノ端緒ヲ握ミ直クコト得策ナリト認メ越界路協定細目ノ一事項トシテ協定草案第三A項ノ終リニ「As far as telephone concern is

concerned the existing foreign telephone company shall supply its service to foreign residents」

ナル一項ノ追加ヲ主張セリ工部局側ハ石ノ主張ニ依リ越界路協定ノ一項ヲ來セリトテ非難シ又吳市長ハ總領事ノ申入レニ對シ電話ハ市政府ノ權限外ナリトテ電話當局へ轉達方承諾セル由ナルカ其ノ後須磨總領事ニ於テ引續キ交通部ト折衝中ナリ（十一月中旬）

三 滬西電力會社ノ設立

上海西部越界路一帶ハ從來上海電力會社ニ依リ電力ヲ供給セラレ
 居タルカ支那側電力會社ハ支那當局ノ庇護ノ下ニ同方面ニ於ケル
 電力供給權ヲ獲得シ北部越界路區域ニ於ケルト同様漸次西部方面
 ノ上海電力會社投資(約四十七萬元)ニ脅威ヲ與フルニ至レルヲ
 以テ上海電力會社ハ上海市政府ト交渉ノ結果新ニ滬西電力株式會
 社ヲ設立シ西部ニ於ケル電力供給ヲ辦理セシムルコトトナリ本年一
 月六日滬西電力會社ト市政府トノ間ニ特許契約ノ調印ヲ見タリ
 滬西電力會社ハ資本金約四百五十萬元ニシテ上海電力公司ハ總株
 ノ百分ノ五十一ヲ保持シ殘餘ノ百分ノ四十九ハ支那側ニテ引受ク
 ルコトトシ滬西地帶北ハ蘇州河ト披亞司路、南ハ虹橋路、東ハ共
 同、佛國兩租界境界線、西ハ紀念碑路ニ依リ圍マレタル地帶ニ於
 ケル雷氣事業ノ專營權ヲ獲得シ之カ代償トシテ新會社ハ上海市政
 府ニ對シ百五十萬元ヲ納付スヘク營業期間ハ三十個年トシ期間滿

市參事會
ニ於ケル
措置

了後ハ市政府ニ於テ評價ノ上接收シ得ルコトトナリ居レリ
右特許契約ハ一月九日ノ工部局市參事會會議ニ附議セラレタルカ我
方參事會員等ニ於テハ同契約カ事前工部局市參事會ノ承認ヲ經サリ
シコト及契約第三十四條ノ市政府ノ租稅ヲ納付セサルモノニハ電力
ヲ供給セストノ規定ハ治外法權國人ノ權利ヲ事實上侵害スルモノナ
ルコトヲ強調スルコトトセルコトトセルカ市參事會ニ於テモ事態ヲ
重要視シ先ツ公共事業委員會ニ附議スルコトトナレル由

支那側申出

第二節 杭州日本租界地券書換問題

杭州日本租界地券ハ既ニ昭和二年頃ヨリ滿期書換ヲ要スルモノアルニ至レルカ當時支那側ハ租界回收熱盛シナリシコトトテ右書換ニ應セス且地稅モ受付サリシヲ以テ地稅ハ領事館ニ供託シ又地券ハ其儘トナリ居リタル處昭和十年三月二十七日杭州市長ハ松村領事代理ニ對シ概要左記ノ通り申出タリ

杭州日本居留地取極書第七條ニハ地券ノ有効期限、書換並地稅ニ關シ規定シアル處日本租界内借地人ノ借地期限ハ疾クニ三十年ノ期限ヲ經過シ居ルニ付此等借地人ヨリ地券書換方申出アル際ハ臨時定期租照ニ依照シテ新地券ヲ交付スヘク又現在租界地價ハ三十年以前ト事情ヲ異ニシ居リ且市區土地ハ測量ノ上地價ヲ決定シ竝民國二十二年分ヨリ地稅ハ地價稅ト改メ地價ノ千分ノ八トシ從前ノ一畝年額二元ナリシヲ適宜増額スルコトト致度尙租界地積ハ此際一併測量シ地價ヲ決定致度ニ付テハ係員ヲ租界内ニ立入り測量セシムヘキニ付租界内

當方訓令

人員ヲシテ隨時協助セシメラレ度

右支那側申出ニ付松村代理ヨリ措置方請訓アリタルヲ以テ當方ヨリ

四月下旬及五月下旬大要左ノ通り回訓シ置ケリ

一 地稅ノ増額

地稅ノ増額ハ取極書ニ規定アリテ主義上反對シ得サルモ（尤モ我
 專管居留地取極書中地券書換ニ當リ地稅ノ増額ヲ豫定シ居ルハ杭
 州租界取極書ノミナリ）右規定ニ依レハ（イ）地稅増額ノ決定ハ「領
 事及支那官意ノ協議」ニ依リ行ハルルモノニシテ即チ我方ノ同意
 ヲ必要トスルモノナルカ（ロ）右増額ハ三十年毎ノ地券書換ノ際必ス
 シモ自動的ニ起ルヘキモノニ非スシテ「此ノ書換ノ時ニ至リ商業
 繁盛ナル時ハ」トノ制限アリ而シテ現在我租界ハ殆ト荒蕪地ノ狀
 態ナルヲ以テ今次書換ニ於テハ右條件ヲ具備シ居ラサルモノト認
 メラル又（ハ）増額ヲ爲シ得ヘキハ毎三十年目ニ限ラレ居ルヲ以テ既
 ニ昭和二年ニ期限到來セルニ拘ラス八年モ放置シ置キ今トナリテ

増額ヲ爲サントスルハ三十年間ハ稅額ノ据置ヲ豫定セル取極書ノ
 趣旨ニ反スヘシ(=)更ニ増額ノ割合ニ付テハ「其時ニ於ケル借地權
 讓渡讓受ノ時價ニ照シテ加増スルヲ得ヘシ」トノ規定アリ其ノ意
 義明瞭ナラサルモ原租借當時ノ時價カ書換ニ當リ昂騰セルコトヲ
 斟酌シテ増額スルヲ得ヘシト解スルコト公正ナルヘク然ラハ若シ
 地稅ヲ増額シ得ヘシトスルモ右増額ハ地價ノ變動ニ均衡ヲ得タル
 範圍ヲ超ユルヲ得サルト共ニ必スシモ同比率タルヘシトスル根據
 ナキ次第ナリ然ルニ支那側ハ今次地券書換ニ際シ地稅ヲ地價ノ千
 分ノ八トナサントスルモノナルヲ以テ之ヲ其繼承認スルコトハ妥
 當ナラサルヘシ
 又地價稅ノ名稱ハ他地方ニ對スル關係モアリ好マシカラサルニ付
 我方トシテハ從來通り地稅ヲ納入スルモノナル建前ニテ進ムコト
 トシ支那側ニテ地價稅ト稱スルコトハ支那側内部問題トシテ黙認
 シ差支ナシ

ニ 地價ノ決定

地價ノ決定ハ何ヲ以テ標準トスルヤ之カ公正妥當ナル決定ヲ見ルハ相當困難ナルヘシ又未借地ノ地價迄モ改訂スルカ如キハ取極書第五條及追加取極書第三條ノ規定ヲ逸脱スル虞アリ旁我方トシテハ右取極上ノ權利ヲ放棄スルヤニ解釋セララルル如キ措置ニ同意スル能ハス尙地價決定ニ領事ノ參與ヲ必要トスルハ勿論ナリ

ニ 假地券ノ發給

支那側ハ外交部ニ於テ正式地券ヲ制定スル迄ノ臨時措置トシテ民政財政兩廳長連名ノ假地券ヲ發給スヘシトノコトナルカ右假地券ハ其ノ効力ニ付疑問ノ餘地アルヘキヤニ認メラレ餘リ好マシカラス已ムヲ得サルニ於テハ發給ヲ受クル際支那側ヲシテ(イ)正式地券發給迄ハ假地券ノ効力確實ナルコト(ロ)正式地券發給ノ際ハ何等ノ手續並費用ヲ要セスシテ假地券ト引換ヘラルヘキモノナルコトヲ確認セシムルコトト致度

四 測量

取極善ニハ再測量ニ付テハ全然規定ナキヲ以テ之カ要ナキ旨主張
シ得ヘク少クトモ支那側ヲ主トスル測量ハ之ヲ承認シ難シ

五 増額地稅ノ溯及的徵收

原則論トシテハ前記ニ項々ノ如ク昭和二年度ニ善換ヲ爲ササリ
シ以上ハ昭和三十二年迄ハ地稅ヲ變更シ得サル筈ナルモ右ハ暫ク
措クトスルモ今回地稅増徵ヲ實施スル場合増額地稅ヲ昭和七年迄
溯及シテ徵收スルコトハ不當ナルヘシ

第三節 廈門共同租界邦人警察官採用問題

廈門共同租界工部局ニ於ケル英國側專制ノ弊ヲ打破シ併セテ在留内
 臺人ノ保護取締ニ資スル見地ヨリ客年來我方ニ於テ邦人警察官採用
 方ニ付努力シ來レルハ昭和九年亞一議會調書第十章第三節記述ノ通
 リナルカ其ノ後塚本領事ニ於テ邦人董事ヲ指導鞭達シ且支那人董事
 トモ聯絡シ目的達成ニ努力セルモ客年末ノ董事會ニ於テハ邦人董事
 ノ英語力ノ不足ト英國側策動ノ結果遂ニ財政難ノ理由ノ下ニ否決セ
 ラレ次テ本年一月二十八日ノ納稅者大會ニ於テ再ヒ特別議題トシテ
 提案セラレタルモ五十二對十七ニテ何等ノ理由ナクシテ否決セラレ
 タリ

上述ノ如ク我方主張ハ今以テ達成スルニ至ラサルカ之カ對策トシテ
 ハ今後租界ニ於ケル我方納稅者數ノ増加ヲ計リ納稅者大會ニ於テ過
 半數ノ投票ヲ獲得シ以テ我主張ノ貫徹ヲ期スル外ナキ處方法宜キヲ得
 ハ來年度大會迄ニハ相當數ノ納稅者ヲ増加シ得ヘキ由ナリ